

## 新しい交通ビジネスの動向と今後の都市鉄道計画

日比野 直彦

政策研究大学院大学 政策研究科 准教授

スマートフォンの普及、情報通信技術の進展により、人々のライフスタイルや交通行動が急速に変化している。例えば、米国のボストンでは、カーシェアリングに登録する際に、新規登録者の約40%が自動車保有を止めたことが報告されている。また、自動車を手放すに当たり、公共交通の利便性が高く、カーシェアリングがしやすい場所への移転ということが起きている。このように、公共交通のサービスが改善されていない場合においても、カーシェアリングの普及がライフスタイルを変え、公共交通の需要に大きく影響を与えている。交通計画・政策を考える上では、交通サービスの変化による需要の変化を推計することに加え、ライフスタイルの変化に伴う交通行動の変化をできるだけ正確に予測し、それに対応していくことが重要となっている。

しかしながら、東京圏の都市鉄道計画においては、これらの変化を反映できる方法が適用されておらず、従来のトリップベースの分析がなされてきた。昨年公表された国土交通省交通政策審議会答申第198号(東京圏における今後の都市鉄道のあり方について)においても、その分析結果に基づいた将来計画が策定されている。少し専門的なことを書かせていただくと、30年前の運輸政策審議会答申第7号における非集計モデルの適用、15年前の運輸政策審議会答申第18号における経路選択行動への非IIA型非集計モデル(プロビットモデル)の適用は、世界レベルに追いつき、さらには追い越したという感があったが、その後十数年間も分析方法の抜本的な見直しがなされることがなく、トリップベース、ツアーベースからアクティビティベースへと世界の潮流が変わる中、従来の方法を踏襲してきたことにより、世界から後れを取り、それが現在大きな課題となっている。昨年まで筆者が赴任していたマサチューセッツ工科大学(MIT)の講義では、198号答申で適用された方法は古典的な分析方法と教えられており、深く反省させられることになった。

本稿では、米国での経験を踏まえ、新たな交通ビジネスの動向を紹介すると共に、今後の東京圏の都市鉄道計画に向けた私見を述べる。具体的には、ボストンにおけるバイクシェアリングのHubway、カーシェアリングのZipcar、ライドシェアリングのUberについて簡単に紹介し、アクティビティベースの分析の必要性とその実現に向けた着眼点を書かせていただく。

Hubwayは、連邦政府と地方自治体からの450万ドルの出資により、600台の自転車、60箇所のステーションで2011年から導入されている。現在では、1600台、160ステーション

に設備も拡張され、年間約 120 万人が利用している。使用方法は簡単で、スマートフォンからオンラインでパスを購入し、そこで得られる番号を入力してロックを外し、あとは、利用してステーションへ返却するだけである。30 分以内に返却すると追加料金はかからない。どこにステーションがあり、何台利用可能かは、オンラインで確認することができる。このシステム導入により、自転車利用が浸透し、多くの道路において自転車レーンが整備されている。

Zipcar は、MIT で MBA を取得した Robin Chase と Antje Danielson の二人の女性により、1999 年にケンブリッジで創業されたカーシェアリング会社である。2001 年にワシントン DC、2002 年にニューヨーク、2005 年にサンフランシスコと拡大を続け、2006 年には米国以外の都市でも展開するようになった。現在では、カナダ、イギリス、スペイン、フランス、オーストリア、トルコと国を増やし、世界 250 都市以上でサービスを展開している。先に述べたが、1999 年の Zipcar の初期登録の際、登録者の 40% が自動車を手放している。レンタカーよりも便利で安いと、多くの人々が利用しており、Zipcar の出現が人々のライフスタイルを変えているといっても過言ではない。近年の動向としては、2013 年の売り上げが 2 億 4600 万ドルにまで成長、同年 3 月に、Avis Budget Group が 5 億ドルで買収するということが起きている。2014 年からは、ボストンにおいてワンウェイ（乗り捨て）のサービスを開始した。また、2015 年の登録車両数は約 1 万台であり、会員数は 90 万人を超えている。これは、日本でも展開しているタイムズカープラスの約 2 倍の多さである。

Uber は、自動車配車ウェブおよびアプリを提供し、オンラインで自動車配車を行っている 2009 年創業のライドシェアリング会社である。わずか数年のうちに 60 カ国以上、500 都市以上に拡大しており、2015 年の利益は約 100 億ドルとなっている。日本へも進出しているため、Uber の名を知っている人も多いただろう。近年では自動運転への出資等、新たなビジネスの展開も行っている。また、UberX、UberXL、UberBLACK 等の様々の種類のサービスを展開しており、利用者は目的に応じて選ぶことができる。ボストン滞在時には、通常は UberX を、大きな荷物があるときは UberXL をといったように、筆者も使い分けていた。利用方法は、スマートフォンのアプリに現在地と目的地を入力すると周辺にいる自動車を配車してもらえ、目的地を事前に知らせることで、ドライバーに説明することも省け、また運賃設定の低さやチップを基本的に支払う必要がないことから、タクシーよりも安くなっているため、多くの人々が利用している。カリフォルニアでは、Uber の進出によりタクシー会社が倒産したという話もあるほどである。

ボストンだけでなく米国では、自動車も自転車も、個人所有から共有へと価値観が変化していることは確かである。本稿で紹介した交通ビジネスは、数年間で急速に発展しており、そして、その成功を基にし、多くの都市、国に展開したり、ロジスティクス、自動運転等へとビジネスを広げたりしている。米国の交通学会においても、これらを対象とした論文が増加化しており、学術、実務の両面において着目されていることは間違いのないであろう。ただし、このビジネスモデルを日本に適用するには多くの課題があることは事実であり、さらにこのモデルが持続可能なものかについては疑問が残る。しかしながら、一つ確実に言えることは、スマートフォンの普及、情報技術の発展を背景に、若い創設者が、自らのアイデアで

新たな交通ビジネスを誕生させ、それにより人々の生活、交通行動を変えていることは紛れもない事実である。

これらの変化は、近い将来、わが国でも起こるであろう。また、人口減少・少子高齢化の進展や訪日外国人の増加等によるライフスタイルの変化も容易に想像でき、個々のトリップに着目しているだけでは不十分であることは言うまでもない。交通は、活動の派生需要であることからすれば、将来の活動そのものを予測することは必要であり、さらに言えば、将来どのような生活をすべきかを考え、それをデザインしていかなければ、新線建設等の大規模事業が減少していく中では、都市鉄道計画など意味がないものになってしまうであろう。少なくともアクティビティベースの分析を適用し、活動変化に伴う交通行動の変化を記述することは必要である。

適用に向けて着目すべき点は、長期の需要推計への適用ということである。仮に次期交通政策審議会答申があるとすれば、そのマスタープランは、今から15年後に30年後に描くことになる。すなわち、今からチャレンジしていくことは、未だ顕在化していないアクティビティを考え、企業立地や世帯の住み替えまでも内在化した分析を行い、プランを創ることになる。そこで重要となるのは、難しい数式を解くことや、パラメータ推定の精度を高めることなどではなく、現場を見て、人々の行動をじっくりと観測し、あるべき「まち」「生活」「交通」を具体的に考え、それをデザインすることである。それがあってこそ、最先端の科学的な分析が意味を持つと考える。未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォームのWSが、それを行う一つの間として機能し、さらには産学連携によるデザイン、分析が進むことを願っている。最後に、本稿が皆さまの何かにお役に立てれば幸いである。

## VOICE (会員の声)

### 日課の通勤ウォーキング

岩井 有人

前回 (H27.7 月号) は「ドナウの源流にて」と題してドイツでのホームステイについて書かせていただきましたが、今回は身近な習慣として続けている毎朝通勤時の職場までのウォーキングについてご紹介したいと思います。

きっかけは3年前の秋に初めて受診対象になってしまった特定保健指導。その際に健康に寄与する3つの目標を立てるということで、「夜遅くの食事を控える」、「お酒の量を減らす (これがキ

ツかった)」とともに掲げた「1日 15000歩」という目標。それまでも1万歩前後は歩いていたので、少し歩数を上げようと考えた上での目標であったが、どのようにして歩数を増やそうかと悩んだあげく、思いついたのが出勤時に手前の駅で降りて職場まで歩こうということ。通常は中央線で東京駅にて降りるところを、神田駅から、御茶ノ水駅からと少しずつ距離を伸ばし、ついには果敢にも四ツ谷駅から歩くことに。これが慣れるもので、今では雨の日と酷い二日酔いの日（猛省）以外は四ツ谷駅（もしくは市ヶ谷駅）から東京駅の職場まで約5kmの道のりを歩いて出勤することが日課になり、2年半ほど続いています（物事は21日続けると習慣になると言われますが、三日坊主の自分には珍しく習慣化しました）。おかげで、今でも1日16000歩前後は歩き、健康維持の源になっています。

その通勤ウォーキング、いつも同じルートを通っても飽きてしまうので、いくつかのルートの中からその日の気分で選んで歩いています。

#### 《ルート1》 四ツ谷駅から半蔵門を経て東京駅へ

一番オーソドックスなルートで、はじめは交通量の多い新宿通りの歩道を半蔵門交差点まで歩きます。そこで右折してからは、皇居外周の歩道。左に皇居、右に国立劇場などを眺めながら三宅坂へと歩を進めます。途中、皇居ランナーに抜かれながらも、運動しているランナーたちに励まされてか、ウォーキングのモチベーションが上がります。

#### 《ルート2》 四ツ谷駅から赤坂見附を経て東京駅へ

近頃のお気に入りのルートで、四ツ谷駅から上智大学の脇を通りホテルニューオータニへ。そこから紀尾井坂を下り、清水谷を経て、赤坂見附へ。赤坂プリンスホテルも東京ガーデンテラス紀尾井町へとすっかり様変わりしました。この赤坂見附の周辺は紀州徳川家屋敷の跡地ということで、石垣やお堀なども残り風情が感じられる一角です。平河町の交差点からは国会議事堂が望めます。

#### 《ルート3》 市ヶ谷駅から半蔵門を経て東京駅へ

京王線で都営新宿線直通に乗った場合は新宿駅で乗り換えずにそのまま市ヶ谷駅へ。市ヶ谷駅からは一旦は靖国通りに出て、すぐに東郷元帥記念公園方面へ。日露戦争でバルチック艦隊を撃破したことで有名な東郷平八郎連合艦隊司令長官の私邸があった場所に開園した公園がこの東郷元帥記念公園です。その後、東郷坂、行人坂、南法眼坂、永井坂などいくつもの名だたる坂を下り上りして半蔵門へと歩きます。その後はルート1と同じです。

いずれのルートも最高裁判所の前にある三宅坂交差点からは同じコースになり、皇居外周の歩道を反時計回りに進み、井伊直弼の桜田門外の変で有名な（警視庁でも有名ですが）桜田門をくぐって、二重橋を眺めつつ皇居前広場、馬場先門へ。そこから三菱一号館など丸の内の歴史を感じながら、鍛冶橋のガードをくぐり無事に東京駅の職場に到着します。

これからは桜の季節。いつものルートと異なり、九段下駅から桜の綺麗な千鳥が淵緑道を通る春限定の特別コースを歩くのが今から楽しみです。皆さまも何かの機会に東京の街を歩いてみてはいかがでしょうか。

(JR 東日本 東京工事事務所 東京工事区)





赤坂見附跡に残る石垣



外桜田門からいざ登城



水面に映える皇居・二重橋



皇居の桜（警視庁をバックに）

## たすきリレー（OB会員の声）

### 京葉線 東京会 Final

新木場で湾岸線から分岐し東京駅に至る京葉線は、事業主体が当時の鉄道建設公団で、東京地下駅とそれに続く京橋トンネルを、国鉄（その後 JR）が受託し東京工務局（現東京工務事務所）が建設を担当しました。京葉線東京会は、建設工事の担当者（現 JR と施工会社 7 社）の集まりで、工事期間中に定期的に行われていた工程や課題の打ち合わせ会が、自然発生的に開業後も継続し、会員相互の懇親を目的に年 1 回開催されてきました。

先日の 3 月 10 日、最後の京葉線東京会が開催されました。今回の幹事は JR で、以下に示す開催案内を 47 名の会員に郵送しました。

「京葉線東京会」は今回の開催で 28 回を数える事となりました。7 つの会社がそれぞれ 4 回の幹事を務め、途中、東日本大震災での 1 回の開催延期を除き、毎年、「懐かしい顔が揃い、近況を語り合う場」を過ごしてきた事となります。会発足当時、「各社の重鎮」だった方々だけでなく、当

時、「新進気鋭の若手」だった皆様も、30年にも及ぼんとする歳月を重ね、会発足時の所属会社を卒業される方が大多数となりました。「京葉線東京会」の目的は、会員相互の懇親を図る場であり、会の継続を望む声もありますが、会員の現況を熟考し、JR 東日本が幹事を務める今回が、「京葉線東京会」の一つの区切りを付ける場ではないかと考えました。会員の皆様には、このような状況をご理解頂き、ご出席頂ければと思います。

(\*東日本大震災が発生した平成23年3月11日、京葉線東京会の開催日でした)

今回の出席者は26名、出席回答後入院等で欠席の方が2名、欠席回答の殆どは高齢と体調不良が理由です。恒例の参加者一人ひとりの近況報告でもやはり健康に関する話題が約半数を閉めました。その他の話題を含め、印象に残った話を以下に列挙します。

- ・76になった、元気。健康診断もいかない。毎日2時間歩いている。
- ・78だが元気、健康診断のみ。昼と夜にお酒も。
- ・山登り頑張っている。その他に詩吟、体操、ヨガ、吹き矢も。
- ・夏は農園手伝い、秋はマキ割。田舎（長野）暮らしを楽しんでいる。
- ・もうすぐ70。個人コンサル業継続中で300坪の畑仕事も。
- ・8月で79。持病多く外での酒はダメなので今日はウーロン茶で楽しみたい。
- ・医者通い。医療控除で税金が戻った。とにかくボケない様頑張る。
- ・父母他界の齢を超えた、あとはオマケの人生。いまを大切に、楽しみたい。
- ・京葉線の現場で結婚、息子が28に。記念オレンジカードや試乗会券他持っている。
- ・現場に6年いたが、とにかく工期短縮で苦しかった。
- ・この現場ほど、土日夜勤をやったことが無い。直轄設計、勉強になった。
- ・久々東京駅付近歩いたが随分変わった。ジムや囲碁楽しんでおりピンピンコロリ希望。

大銀杏の移植からスタートし平成2年3月10日に開業した京葉線東京地下駅。建設工事に何らかの形で関係された方はものすごい人数ですが、縁あって47名が参加してきた京葉線東京会が幕を閉じました。このような集まりは珍しく残念との声もありましたが、余韻を残して、一つの区切りを付けたと実感した最終回でした。(匿名希望)



集合写真





工事着手前全景（航空写真）



着手前（都道・大銀杏）



首都高 4 号線アンピン



横須賀線（シールドトンネル）アンピン



MF シールドトンネル



東京駅前で大断面 NATM 工法

出典：東工技報 京葉線特集号(1990)

JR 東日本 東京工事事務所

## NEWS

## ■最近の気になるニュース

岩井有人さん（JR 東日本東京工事事務所）の Facebook「今朝の気になる記事」より抜粋させて頂きました。

① 中低速リニア、中国で続々 (3.08)

中国で時速 100km 前後で走る「中低速リニア鉄道」の建設ラッシュが始まった。インフラ建設大手の中国鉄建や鉄道車両世界最大手の中国中車などが推進し、北京市、広東省などの約 10 都市で建設計画。総投資額は 1 兆円規模に達する見込み。

② 300 自治体、コンパクトな都市志向 (3.04)

急速な人口減や高齢化を受け、300 を超える市町村が計画的にまちを縮め自治体機能維持の方針。住民の反発などから失敗を重ねた教訓を踏まえ、補助金や税制優遇などの政策メニューをそろえ、緩やかに商業施設や居住区を集約・誘導する。

③ 健康づくりで 80 都市連合 さいたまや岐阜、取組み事例共有 (2.21)

東京都荒川区や新潟県見附市など全国 80 の自治体は住民の健康づくりで協力し合う「日本健康都市連合」を発足。後発医薬品の普及や医療機関と連携した糖尿病の重症化予防などで、効率的な取組みを共有する。

## 【その他】

- ・新幹線延伸「南回り」に 与党方針 (3.08)
- ・森林保全へ新税 19 年度にも、住民税に上乗せ (3.03)
- ・神田へ広がる再開発「日本橋再開発」第 2 ステージへ (2.28)
- ・圏央道、きょう 9 割開通 6 つの高速道つながる (2.26)
- ・地球に似た 7 惑星発見、水存在の可能性 (2.23)
- ・トラック人手不足追い風 JR 貨物 初の鉄道黒字 (2.16)

## ■計画・交通研究会が会報 2017-3 を発行

## ◇Opinion

- ・企業のダイナミズム活用のための市場の開放 みずほ総合研究所上席執行役員 寺村隆男

## ◇News Letters (事業報告・活動報告)

- ・次世代商業都市開発の方向性 (平成 28 年度第 4 回イブニングセミナーより)

## ◇Projects (プロジェクト紹介)

- ・空港コンセッション～仙台国際空港株式会社

## ◇Column

- ・私の全てはここから始まった 東京理科大学工学部土木工学科名誉教授 内山久雄

## ◇Backyard

- ・平成 29 年度第 1 回イブニングセミナーのお知らせ  
 テーマ 公共交通のコンセッションと経営戦略～関西エアポートの挑戦 (仮題)  
 平成 29 年 4 月 18 日 (木) 総会に引続き開催
- ・平成 29 年度第 2 回イブニングセミナー及び春の見学会のお知らせ



イブニングセミナー 平成 29 年 6 月 6 日 (火) 17:00～

日本大学駿河台キャンパス C S T ホール

話題提供者 東京地下鉄 (株)

専務取締役 山村明義

(株) アトリエ・ジーアンドビー

デザイナー 吉岡あずさ

見学会 平成 29 年 6 月 6 日 (金) 渋谷駅 13 時集合

渋谷駅、新橋駅、上野検車区を見学予定

\* 詳細は計画・交通研究会事務局にお尋ね下さい。 [jimukyoku@keikaku-kotsu.org](mailto:jimukyoku@keikaku-kotsu.org)

### ■シビルNPO連携プラットフォーム (CNCP) が会報第 35 号 を発行

◇巻頭言 I T リテラシーと「間」の変容 CNCP 常務理事 有岡正樹

◇コラム 母親のこと NPO 法人道路の安全性向上協議会 専務理事 吉川良一

◇トピックス NPO ファイナンス (6)

CNCP 中間支援組織としての助成金制度への関わり方

CNCP サービス提供部門 NPO ファイナンス研究会

◇会員紹介 37 特定非営利活動法人 茨城の暮らしと景観を考える会

～まちづくり会社「株式会社まちみとラボ」の挑戦～

◇部門活動紹介 ・事業化推進部門

「うなぎの完全養殖インフラ整備事業研究会」のお知らせ

シンクタンクチーム 座長 三井元子

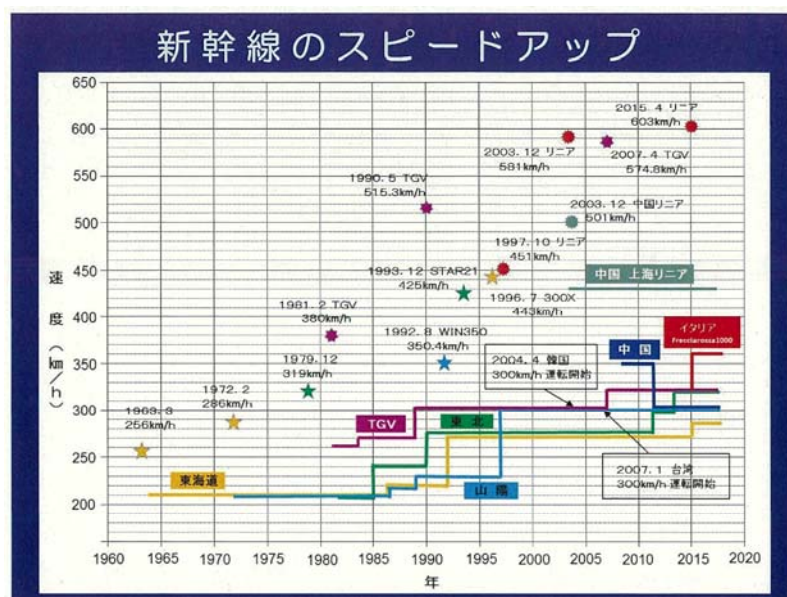
◇その他 ★CNCP アワード 2017 募集

\* 詳細は CNCP 事務局にお尋ね下さい。 [info@npo-cnep.org](mailto:info@npo-cnep.org)

## 今月の国際比較データ

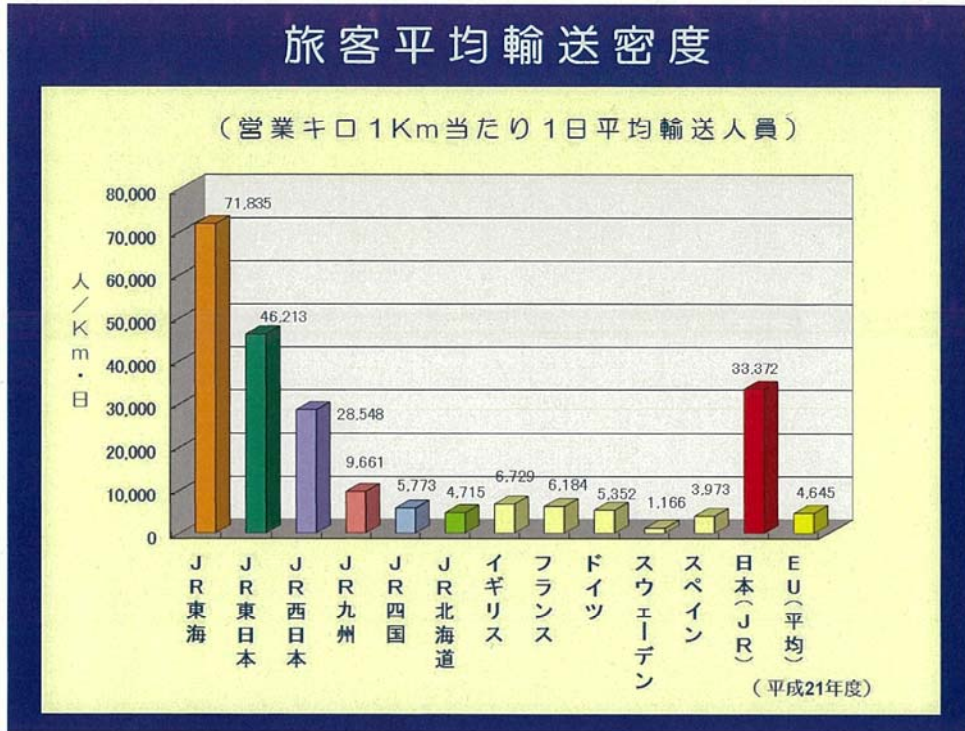
### ① 新幹線のスピードアップ

出典：鉄道建設研究会・未来構想 P F 共催の技術講演会 (2017 年 1 月 8 日)



② 旅客平均輸送密度

出典：鉄道建設研究会・未来構想PF共催の技術講演会（2017年1月8日）



③ 横浜市内の地域別外国人延べ宿泊者数 年別推移

出典：SUBWAY

横浜市内の地域別外国人延べ宿泊者数年別推移 (平成22年～27年)

(単位：人泊)

地域	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	構成比	対前年比
中国	66,753	44,420	77,223	75,251	99,801	231,953	32.2%	232%
アメリカ	82,934	68,703	89,050	91,577	96,621	98,971	13.8%	102%
台湾	29,679	22,501	40,786	47,670	54,382	75,099	10.4%	138%
韓国	33,098	22,292	26,022	28,742	29,159	36,698	5.1%	126%
タイ	3,495	4,186	13,093	13,608	11,849	30,559	4.2%	258%
イギリス	12,098	17,218	23,300	25,654	26,390	24,857	3.5%	94%
香港	11,078	9,081	7,688	17,572	14,219	21,373	3.0%	150%
ドイツ	12,985	11,065	13,892	15,987	15,537	17,402	2.4%	112%
フランス	7,945	5,960	8,022	9,570	11,374	14,086	2.0%	124%
カナダ				5,773	7,966	13,003	1.8%	163%
オーストラリア				9,304	9,980	10,914	1.5%	109%
インド				7,161	8,317	10,528	1.5%	127%
シンガポール	6,751	5,335	5,259	6,923	10,073	9,814	1.4%	97%
マレーシア	3,240	3,508	4,848	6,597	7,078	9,264	1.3%	131%
インドネシア				3,380	3,757	7,048	1.0%	188%
その他	69,987	76,941	94,312	77,658	94,889	107,824	15.0%	114%
合計	340,043	291,210	403,495	442,427	501,392	719,393	100%	143%

※H22～24年のカナダ、オーストラリア、インド、インドネシアは未調査のため、その他に含まれる

出展：観光庁 宿泊旅行統計調査

※「横浜市中期4か年計画2014-2017」において横浜市が誘客対象地域として定める8地域（中国・韓国・台湾・香港・タイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア）に加え、平成27年の年間宿泊者数がのべ1万人以上の地域を掲載。

## PF書店

## ① ロウソクの科学

ファラデー著 三石巖訳 角川文庫

本書の内容は 1861 年のクリスマス休暇に、ロンドンの王位研究所で催された連続 6 回の講演の記録である。

第 1 講は、1 本のロウソク・・・その炎、原料、構造、運動、明るさ、第 2 講は、1 本のロウソク・・・その炎の明るさ、燃焼に必要な空気と水の生成、第 3 講は、生成物・・・燃焼からの水、水の性質、化合物、水素、第 4 講は、ロウソクの中の水素・・・燃えて水になる、水のもう一つの成分、酸素、第 5 講は、空気中に存在する酸素、大気の性質、その特性、ロウソクのそのほかの生成物、二酸化炭素、その特性、第 6 講は、炭素すなわち木炭、石灰ガス、呼吸および呼吸とロウソクの燃焼の類似、結び、

1 本のロウソクを用いて、科学と自然、人間との深い交わりを伝えている。科学の面白さ、そして人類の未来をも照らし出す名著で、技術屋必見の名著といえる。



## ② トランプのアメリカ

朝日新聞アメリカ大統領選取材班著

就任早々破天荒な言動で波紋を広げているドナルド・トランプ米国大統領の実像に、朝日新聞が総力を挙げて迫る。本著は、大統領選の同時追跡ドキュメントに加え、新大統領の来歴、波乱の主演となった支持者たちの真意、今後の世界経済の行方、米国社会にくすぶる分断の火種など、あらゆる角度から「漂流する大国」の真の姿を描き出している。

最近の書店には「トランプ」本が数多く並んでいるが、その中で本著は異彩を放っている。第一線の記者が現場を歩いて取材したものであり、米国の現状を正確に伝えている。是非一読されたい。



## ③ 弘兼流 60歳からの手ぶら人生

弘兼憲史著 海竜社

納得のいく「死に様を迎える」ためには相応の準備が必要と著者は言っている。わけても 60 歳以降は、残りの人生を歩むために必要な荷物を極力少なくして、「身軽に生きる」ことを勧める。ものや金の整理だけでなく、人間関係についても著者ならではの考え方を記述、納得させられるものが多い。社会から孤立するのではなく「孤独力」をつけて楽しむといった決意、老いも成長の一つであり身の丈に合わせてサイズダウンするといった言葉に励まされる。

とにかく見栄が邪魔したり、さまざまなこだわりが捨てられなかったりする人に、本著に登場するアドバイスは参考になる。





## 事務局通信

## ◇技術講演会開催のお知らせ

テーマ 米国の交通ビジネスの動向と今後の東京圏の都市鉄道戦略

講演者 政策研究大学院大学 准教授 日比野直彦様

日時 平成 29 年 3 月 23 日 (木) 16:00～

場所 JR 新宿ビル 6 階会議室

## ～ ● 今月の写真コーナー ● ～

東京は上野の「学問の神様・湯島天神」に行ってきました。



【大勢の人出、茶会も】



【合格祈願の絵馬が鈴なり】

(写真提供：未来構想 PF 事務局)

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。  
連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 携帯:090-9150-8613 メール：[info@miraikoso.or.jp](mailto:info@miraikoso.or.jp)  
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28